

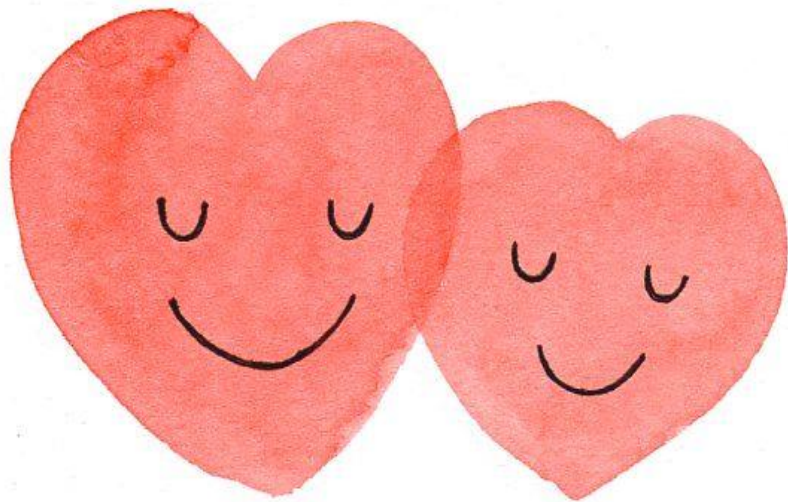
ウィメンズヘルス



家族計画

各避妊法（発表）

家族計画の実際と課題



2026/7/13
関根

Ⅰ. 家族計画指導の実際

* 個別指導

- ・ 個人対象とした個別指導が基本～ほとんどが女性
→ リプロダクティブヘルス/ライツの考え方を身につける
自分らしく納得した生き方をしていく



その家族や周囲の人々も幸せを実感できる

* 集団指導

- ・ 家族計画指導（性教育）や命についての教育や講演
→ 「生命の神秘について」「誕生の瞬間と感動」など
家族計画や避妊の具体的指導
お互いを思いやる心の気づき、生命の大切さ



テーマを正確に把握し、指導内容を決定

Ⅰ．家族計画指導の実際

*生活状況のアセスメント

- ・身体状況（年齢、健康状態、遺伝的な問題の有無）
- ・ライフスタイル（人生観、価値観、結婚や仕事に関する考えなど）
- ・経済状況（住宅や収入）
- ・受胎や避妊に関する知識レベル
- ・パートナーの態度（避妊に協力的かどうか）

*プライバシーの確保

- ・性に直接関係→**プライバシー確保に特段の配慮**が求められる
- ・1992年 国際家族協会連盟→患者の権利宣言

- ①情報
- ②サービスの利用
- ③選択
- ④安全
- ⑤プライバシー
- ⑥尊厳と快適さ
- ⑦サービスの継続
- ⑧専門家の意見

これらを確保することによって、
ケアの質の改善をはかる

2. 家族計画の課題

- * 人工妊娠中絶が多い
- * 性交経験率の若年化
- * 性感染症に関する健康問題

1) 人工妊娠中絶

①人工妊娠中絶の適応→**母体保護法14条**

- ・ 妊娠の継続または分娩が身体的または経済的理由により母体の健康を著しく害するもの
- ・ 暴行もしくは脅迫によってまたは抵抗もしくは拒絶できない間に姦淫されて妊娠したもの



妊娠22週未満と規定

2. 家族計画の課題

②人工妊娠中絶の母体に及ぼす影響

＊直接障害：子宮頸管および体部の損傷（頸管裂傷）
出血、感染、内容遺残、麻酔による障害

＊後遺症：習慣流・早産、続発不妊症、子宮外妊娠
胎盤癒着、月経異常、不正出血、不定愁訴

＊精神的影響：中絶に対する罪悪感、胎児への哀れみ
次回妊娠に対する不安
性行為への罪悪感、男性への不信感



手術前後のカウンセリング
術後の心身の良い経過への支援

いわゆる経口中絶薬（参考資料）

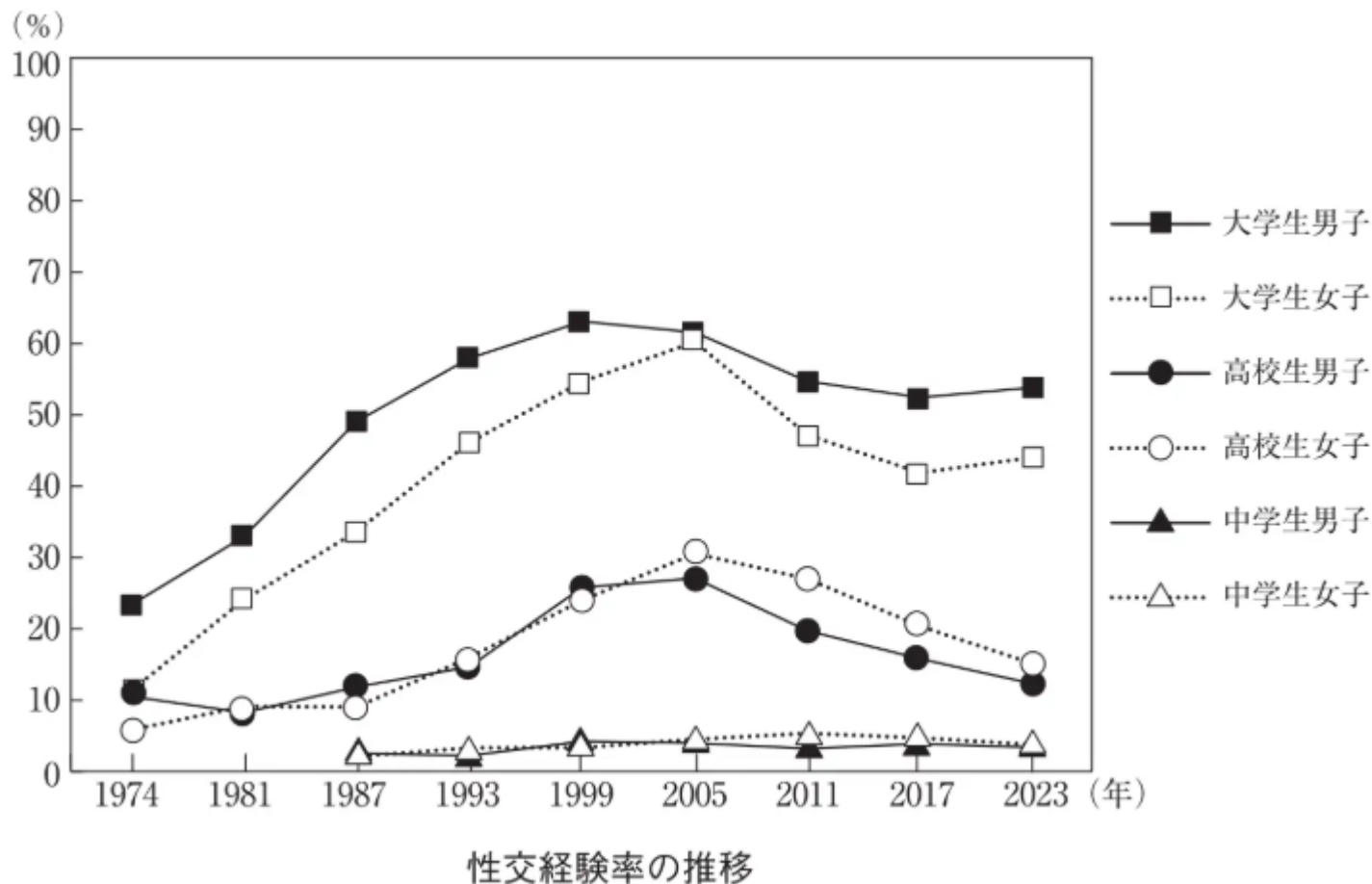
販売名	メフィーゴパック
一般名	ミフェプリストン/ミソプロストール
効能又は効果	子宮内妊娠が確認された妊娠63日（ 妊娠9週0日 ）以下の者に対する人工妊娠中絶
用法及び用量	ミフェプリストン錠1錠（ミフェプリストンとして200mg）を経口投与し、その36～48時間後の状態に応じて、ミソプロストールバツカル錠4錠（ミソプロストールとして計800 μ g）を左右の臼歯の歯茎と頬の間に2錠ずつ30分間静置する。30分間静置した後、口腔内にミソプロストールの錠剤が残った場合には飲み込む。

- 2023年4月 日本で初めて製造・販売が承認された経口中絶薬（厚生労働省）。
- 母体保護法指定医師**が所属する医療機関のみで実施可能。
- 本剤は、薬局やインターネットで購入することは不可。



2. 家族計画の課題

2) 性交経験の若年化



(日本性教育協会 第9回青少年の性行動全国調査)

2. 家族計画の課題

3) 性感染症に関する健康問題

*性感染症 (STD/STI)

性行為あるいは、その類似行動によって感染する疾患

日本で感染者数が最も多い疾患は・・・

→性器クラミジア：上行感染し、子宮外妊娠や不妊の原因になる



*性感染症の予防に関する知識は性交開始前に教育する必要がある。

(性感染症の種類・感染経路・症状・治療)

*近年…**梅毒が急増**→**20代女性**に多い！

多くは症状がないことも→検査を受けよう

(ほとんどの場合、血液検査で判定・診断)

治療しても何度でも感染する

3. 家族計画の留意点

- *望まない妊娠を防止し、避妊に伴う危険を最小限にして、女性のリプロダクティブヘルス/ライツを維持
 - 避妊法の種類、使用方法、効果、安全性、副作用、詳細な情報提供をすることが大切である

講座 5 p 345
基礎 2 p 290 表7-1

GATHERの内容

G=Greet clients : 相談者を温かく迎える
A=Ask clients about themselves : 相談者とパートナーの年齢、社会的立場、性交経験の有無、性交回数をはじめ、どのような避妊法を望んでいるか、過去に用いた避妊法は何かについて問診する。
T=Tell clients about family planning methods : 相談者の年齢などを考慮して、そのカップルに適した避妊法は何か、その使用法、避妊効果、副作用などについて十分な説明を行う。
H=help clients choose a method : どのような避妊法も選択するのは相談者自身であり、決して誘導や無理強いはしない。
E=explain how to use the methods : 相談者が避妊法を自分で決定した場合には、その使用法について詳細に説明し、副作用や禁忌などについても話し、どのようなときに使用を中止するか、懇切丁寧に情報を提供する。
R=return for follow-up : どの避妊法を決めたにせよ、その後の指導を怠ってはならない。

4. 家族計画指導と助産師の役割

＊助産師が家族計画指導に関わる場面

→思春期から更年期までのあらゆる場面

＊助産師は出産に直接関わる職種として・・・

～母と子と後生(未来)につなげていくいのち～

3つのいのちを預かる

- ・ 生命の尊重
- ・ 子どもを産み育てることの喜び
- ・ 人間としての価値
- ・ 望まない妊娠の防止



リプロダクティブヘルス/ライツの理念から



女性の身体に直接触れていく仕事だからこそ、
より具体的にその場面を活用した指導ができる

助産活動の中核である
お産の現場からみる
「生命＝生」
に向き合う態度
→性教育の大きな柱・・・
ゆたかな「性と生」

参考文献

- 助産学講座5 助産診断・技術学 I 医学書院、2026
- 助産師基礎教育テキスト2026年版 日本看護協会出版会
- [いわゆる経口中絶薬「メフィーゴパック」の適正使用等について | 厚生労働省](#)（最終閲覧2026.7.9）
- [全国12,562人の若者を対象にした「青少年の性行動全国調査」の全調査・分析結果をまとめた『「若者の性」白書ー第9回 青少年の性行動全国調査報告』を小学館より刊行 | 株式会社小学館のプレスリリース](#)（最終閲覧日2026.7.9）